

太乙膏の製法検討と品質評価について

○大迫 将也¹, 飯塚 徹¹, 今井 淳², 八木 多佳子², 金 成俊¹, 水島 規子¹,
成田 延幸¹ (¹横浜薬大, ²いまい漢方薬局)

【目的】太乙膏は、きり傷・とこずれ・やけど等に用いられる漢方の外用剤である。古典（和剤局方）による製法は当帰、桂皮、大黄、芍薬、地黄、玄参、白芷の生薬7種をごま油で抽出し、この抽出油に蜜蝋を加えて加温、濾過し、冷後成形したものである（従来法）。ごま油の抽出時間は、季節により3~7日を要する。われわれはこの抽出時間の短縮のためごま油を加温することとし、その温度と時間を種々検討してきた（改良法）。今回われわれは、従来法と改良法との間で抽出成分の相違が生じるかについて検討したので、報告する。

【方法】試料は改良法による太乙膏と、従来法による太乙膏・各生薬の一味抜き太乙膏・各生薬のみで製したものをを用いた。各試料は、そのまま、あるいは有機溶媒による脱脂処理をして、TLCおよびHPLCによる分析を行った。このとき、ごま油由来の成分が分析を妨害したため、オレイン酸・リノール酸（ごま油主成分）の混合油や各種有機溶媒で抽出した生薬成分も試料に用い、実験を行った。

【結果と考察】改良法と従来法において、太乙膏はTLC上はあまり大きな差は検出されなかった。さらに各生薬、一味抜き製剤を詳細に比較したところ、桂皮由来成分のスポットの一部に相違が見られたが、定性的な違いは僅かなものであった。つぎにHPLCによる分析を試みたが、ここでは明確な相違を検出出来なかった。蜜蝋由来の粘調成分の除去、ごま油由来成分の影響が無視できないため、試料調製法と併せて分析法を検討中である。また、LC-MS、GCを用いた成分検出及び含量変化の定量的測定も検討している。